

ロマンスカーミュージアム運営基本方針

1. 設立趣旨

ロマンスカーミュージアムは、2021年4月19日、小田急電鉄株式会社（以下「小田急電鉄」という）が海老名市に開設した企業ミュージアムであり、1927年の小田急線開業以来初となる屋内常設展示施設です。小田急線開業当時の車両や歴代のロマンスカー車両の展示などを通して歴史を伝えていくとともに、小田急の特性を活かしたさまざまなコンテンツにより小田急に親しんでいただく場を目指して開業しました。小田急電鉄ではこれまで退役車両を喜多見・海老名に保存し、ファミリー鉄道展などの場で一般公開してきました。歴史的価値のある車両をお客さまにいつでもご覧いただけるような施設を開設することによって、お客さまに喜んでいただくとともに、お客さまや地域の皆さまとの良好な関係を構築し、小田急電鉄のコミュニケーション拠点となることを目的としています。

旅、くらし、ロマンスカー

当館は、小田急電鉄の企業ミュージアムでありながら、“小田急”ではなくあえて“ロマンスカー”を館名に掲げています。それは、小田急電鉄にとってロマンスカーは、ブランドイメージを形づくる象徴的存在であり、ロマンスカーを起点に小田急や沿線の魅力をお客さまにお届けしたいという意味合いを持ちます。元来、ロマンスカーとは小田急電鉄が運行する特急列車に使用される車両の総称です。しかし、現在、ロマンスカーは車両の名称に留まらず、小田急線を利用する皆さまや沿線にお住いの皆さまにとって、箱根への旅の思い出であり、通勤・通学で乗車する日常の一部であり、沿線風景の1つとなっています。

また、小田急電鉄としても、ロマンスカーは社員にとって誇りとなる存在であり、鉄道に関わる多くの技術や理念は代々受け継がれていますが、とりわけロマンスカー・SE（3000形）という当時としては極めて先進的な車両を生み出した「進取」の気概は、今なお大事にされています。

当館は、ロマンスカーそのものだけでなく、ロマンスカーで行く旅、ロマンスカーが寄り添う日常、ロマンスカーから受け継がれる精神や技術等、ロマンスカーと共にあるすべてのものに価値を見出し発信して参ります。

ロマンスカーミュージアムは3つのコンセプトを柱として設立されました。本運営方針もこのコンセプトを受け継いで作成しており、各計画の実施においても尊重されます。

事業コンセプト：子ども大人も楽しめる鉄道ミュージアム

ロマンスカーミュージアムは、鉄道ファンはもちろん、子どもたちが体験を通してロマンスカーや小田急電鉄に関する興味を深め、大人も「付き添い」ではなく一緒に楽しめるミュージアムを目指します。

企画コンセプト：電車だけじゃない、ワクワクを。

ロマンスカーミュージアムは、沿線の人々にとって移動手段に留まらず旅や暮らしに寄り添う存在であるロマンスカーの多面的な魅力を発信するとともに、その魅力を活用して鉄道ミュージアムの枠を越えた、ときめく学びやワクワクする遊び（エデュテイメント）を提供します。

デザインコンセプト：Playing Garage（魅せる検車庫）

ロマンスカーミュージアムは、車両の検査や整備を行う海老名検車区の検車庫の並びに建ち、検車庫をコンバージョンしたイメージでデザインしています。外観は華美にならずシンプルに、施設内も色を抑えて、ロマンスカーをはじめとした展示物やコンテンツが引き立てる空間を持ちます。

2. 方針の策定の目的と経緯

小田急電鉄ではロマンスカーミュージアムの運営について、「中期計画」に基づいて事業を実施してきました。本方針は、より長期的な視野を以ってロマンスカーミュージアムの活動の指針を定めるべく策定するものです。

また、令和5年（2023年）4月1日の博物館登録制度改正による設置主体の限定撤廃により、企業法人が設置する博物館においても博物館登録が可能となりました。ロマンスカーミュージアムにおいても博物館登録を目的として、新しい博物館法における登録審査基準に則った方針を策定したものです。

2024年度以降の活動においては、本運営方針に基づき、「中期計画」についても方針に則った内容とすべく見直しを行い、事業を実施します。なお、本方針については原則5年に一度見直しを行うものとして定めます。

3. ミッション

本方針の上位理念として、ロマンスカーミュージアムが実現すべきミッションを以下に定めます。

ロマンスカーの魅力を通じて「感動」「笑顔」「未来」をつくります。

私たちは、ロマンスカーの魅力を最大限に発信し、多くの方々に感動と笑顔をお届けします。さらに、地域、社会と連携し、常に新しい発想で何事にも果敢に挑戦して、楽しい未来を切り開いていきます。

4. 運営ビジョン

運営基本方針として、ロマンスカーミュージアムが目指すべき10の運営ビジョンを定めます。これは博物館として果たすべき5つの役割に、企業ミュージアムとしての役割を加えた6つの役割に分類されるものとして定義しています。

【守り、受け継ぐ】

- ① 小田急電鉄の企業活動に関する資料を体系的に収集し、企業史のアーカイブとしての機能を果たすとともに、産業遺産である車両等の機械類を適切に保存、管理、活用する。

【わかち合う】

- ② 小田急電鉄を代表する車両であるロマンスカーをはじめとする小田急車両の魅力（先進性、技術、サービス等）に加え、小田急電鉄の理念、それを支えてきた社員の想いを発信する。
- ③ 沿線とともに発展し人々の暮らしを支えてきた小田急電鉄の歴史と、時代と共に変革を続ける小田急電鉄の未来について共有する。

【はぐくむ】

- ④ 学校・教育団体等と連携し、教科教育や総合的な学習、およびキャリア教育に寄与するとともに、社会を支える人材育成に貢献する。
- ⑤ 鉄道文化を通じて人々と多様性を持って関わる生涯学習拠点であり、かつ人々が互いに交流しあうコミュニケーション拠点となる。

- ⑥ ロマンسカーをハブとして、食・アート・音楽・自然・科学や文化芸術活動等、人生を豊かにする様々な分野の知識・体験を提供する。

【つなぐ、向き合う】

- ⑦ 沿線の自治体・企業と連携し、地域の魅力発信や経済発展、観光促進など社会課題解決のために協業する。
- ⑧ 他の鉄道ミュージアムや鉄道会社と連携して、日本の鉄道文化を活気づけ、鉄道に親しみを持っていただけるための活動を行う。

【営む】

- ⑨ ミュージアム空間やロマンسカー等の資産を活かし、持続可能なミュージアムであり続けるための施策を行う。

【ともに支える】

- ⑩ 小田急電鉄のコミュニケーション拠点として来館者や取引先に対して発信を行い、かつ小田急社員に対しては自分の仕事の価値を再発見してもらえるようなインナーブランディングを目指すとともに、広く小田急グループの事業に貢献する。

5. 運営基本方針の体系
 コンセプトおよびミッション、ビジョンを含む運営基本方針の体系は以下の通りです。

